

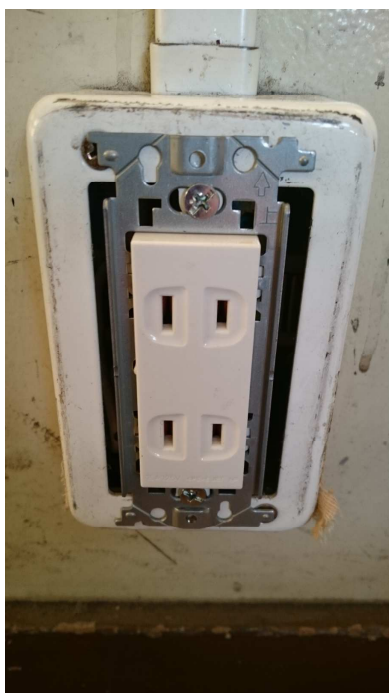
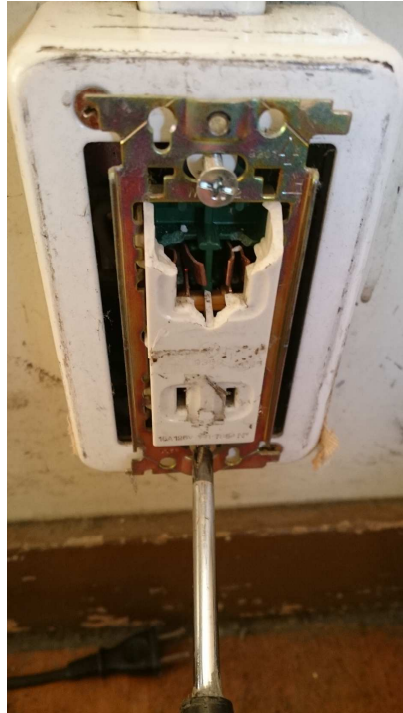
001-コンセント・スイッチ修理のまとめ

2018年7月

校内各所に配置されているコンセント、プラグ及び電灯スイッチが破損する場合があります。特に教室内のコンセントは扇風機、暖房機その他の配線がされているが、プラグ差し込みと机配置の隙間が狭いために児童が引っかけて破損してしまうケースが多い。

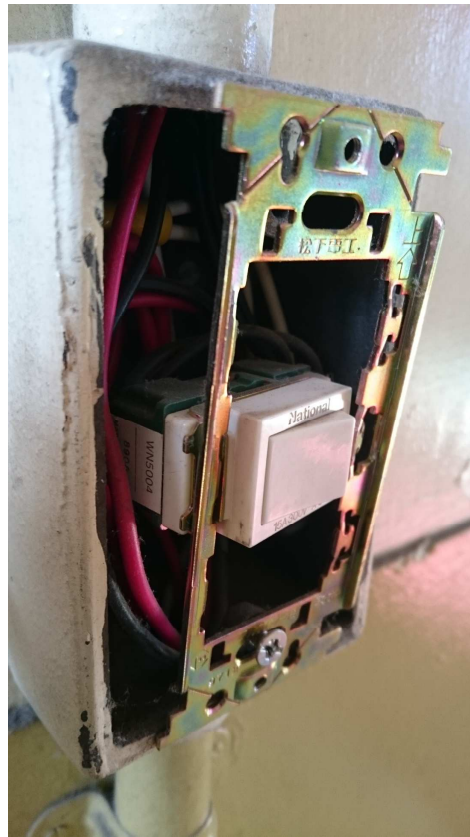
また、電灯スイッチも叩いて破損というケースもあり都度修繕を行う必要がでるが工事には本来、電気工事士の資格を有するものが対応に当たる。

以下、活線修繕となるので十分感電などに注意して修理を行う事が必要である。



1. コンセントカバーを取り外す
2. コンセント本体上下ビスを取り外す
3. コンセント本体を引き出す
4. 引き出したコンセント裏部の2本の電線を引抜
(マイナスドライバーを隙間に差し込むと引き抜く事が出来るが、活線なので互いの電線を接触させない事と、素手で触らない事。感電防止)
5. 新しいコンセントを取付
(この手順は2本の電線を引き抜いた穴と同一位置に差し込むようにして接続する)
6. 本体取付
7. カバー取付
8. 動作確認 (テスターにて AC100V 確認)

廊下などの蛍光灯点灯スイッチ不良の例



スイッチカバーを開けると本体が見える

○印の部分の金具にスイッチ本体がかしめ取付られているが、かしめ不良でスイッチ部分が押し込まれて動作不良となるケースが多い。

もし、スイッチ本体が破損していた場合は

かしめ部を開いてスイッチ本体を取り出し、新規に入れ替える

その際、スイッチ本体裏部に2本の電線が接続されているので、コンセント交換と同様に活線作業となりますので感電、短絡に注意して作業する

受け金具の破損の場合は

スイッチかしめ部を開き、スイッチ本体と金具を切り離し新規に受け金具を取付しスイッチ本体を金具かしめ部に位置決めして、マイナスドライバーでかしめる

スイッチカバーを取り付けて動作確認して完了。